

会 議 金 録

会議名 (審議会等名)		川西市社会福祉審議会		
事務局 (担当課)		健康福祉部 福祉推進室 福祉政策担当 内線(2652)		
開催日時		平成19年6月26日(火)14時00分~16時00分		
開催場所		川西市役所2階 202会議室		
出席者	委員	牧里会長・岩田委員・真鍋委員・関委員・滝委員・北川委員・峯本委員		
	その他	福祉推進室水越室長・福祉推進室杉岡参事・障害福祉担当山元主幹・すこやか子ども室藪野室長・子育て支援担当小林主幹・いきいき長寿室乾室長・介護保険担当樋口主幹・認定サービス担当堀本主幹・長寿社会担当大田主幹・健康づくり室木下主幹・同室石田主幹・川西市社会福祉協議会荻本副主幹		
	事務局	福祉政策担当 根津主幹・丸野副主幹・井関主事		
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 報告 (1)福祉デザインひろばづくり事業の進捗状況について (2)各担当における地域福祉計画の進捗状況について (3)市民フォーラムの取り組み状況について (4)災害時要援護者支援の取り組み状況について (5)すこやか子ども室、いきいき長寿室、健康づくり室の事業進捗状況について (6)障害者福祉計画について 3 議題 (1)地域福祉計画の見直しについて (2)その他		
会議結果		別紙 審議経過のとおり		

	<p>< 開会 ></p> <p>< あいさつ ></p> <p>< 委員自己紹介 ></p> <p>< 市職員紹介 ></p> <p>< 資料確認 ></p>
事務局	<p>福祉デザインひろばづくり事業は現在市内 14 地区中 12 地区が事業を展開している。今年度 1 地区が新たに、もう 1 地区も今年度中に開設という計画で進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福祉デザインひろば」づくり事業の各地域の特色（資料番号 2 - (1)） ・各担当における平成 18 年度の「地域福祉計画の進捗状況」について〔平成 19 年 5 月末日現在〕(資料番号 2 - (2)) ・平成 18 年度地域福祉市民フォーラム(高齢者の生活を支える地域づくり)（資料番号 2 - (3)） ・災害時要援護者支援の取り組みに向けての考え方（資料番号 2 - (4)）について説明。
委員	<p>大和地区の安心手帳の取り組みについて、進捗状況を教えて欲しい。</p>
事務局	<p>現在、地域で内容を精査中。地区福祉委員会が全戸訪問し配布する予定で 11 月から 12 月頃には配布したいと聞いています。</p>
委員	<p>相談窓口や、ふれあいサロンについて、地域によって件数や参加者数に差があるかと思うが、どのように評価しているか。</p>
事務局	<p>地域の方に悩みを聞いてもらうということに抵抗がある人もいるという気もしている。新たな啓発、周知の方法についても各地区で模索されている。</p>
委員	<p>各地域で特色ある、色々な方法で事業を実施され、住民の方が参加されている。いいことだが、地域の障害者の方も積極的に参加できるように取り組まれているのか。社会参加できない障害者も多い。障害者の参加の数字をつかんでいるのか。</p>

主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

事務局	デザインひろばづくり事業で障害者との交流や支援事業がある。多田地区ではバスツアーをしている。数字について、把握していないが、推し進めてもらうようにしていく。
事務局	社会福祉協議会の地区福祉委員会は福祉委員が事業を展開している。福祉委員には障害者の団体の方もいる。呼びかけはしているが、広くPRはできていない。
委員	市民フォーラムのテーマであった「高齢者の生活を支える地域づくり」について、多くの人が高齢者を地域で支えていくというのはすばらしいことである。在宅医療は医師や訪問看護などだけでは支えられない。市民の方などがお年寄りを支えるというのはすばらしいことである。非常に勉強させてもらった。続けてもらいたい。
会長	市民フォーラムは今回、これが初めてなのか。
事務局	今後も、年に1回の開催を考えている。
会長	第何回市民フォーラムというように継続していけばよいのでは。ある意味川西の財産になる。
事務局	そのようにしていく。
委員	福祉デザインひろばづくり事業で、地区の課題に対する取り組みや活動の評価をどう捉えているのか。
事務局	それぞれの地域で課題を考えてもらい、その解決に向け、それぞれの地域で取り組んでいただいている。今まで市は事業をスタートすることに重点を置いてきた。来年度に計画の見直しを行うが、事業の評価を各地域でも行っていただくことも必要であると思う。
委員	デザインひろば事業の下地ができた。独自性をもって取り組んでいるのは良いことだと思う。他の地区ではどのようなことをやっているのか、工夫をしているのかということを取り入れながらやっていくと良いのではないか。地域においては横のつながりがまだ希薄な点もある。

主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

委員	見直し後は、目に見えるかたちでスタートしてはどうか。コミュニティバスの運行を検討している地域もある。高齢者は外に出ていくことが大事である。病院がバスを運行しているところもある。地元の企業や、病院などとも連携しながらやっていく。3年、5年と継続していくことが大事だと思う。今後の課題をどのように考えているのか。
事務局	ネットワーク会議で子ども会、老人クラブ、PTAなどと連携していく。お互いが事業で連携し、課題を出してもらおう。地域で考え、行政、社会福祉協議会などと連携していく。どのようにして連携して問題解決に向かっていくのかということが大事。 相談事業はPRが大事であり、相談事業をすることにより、地域住民の安心感につながる。各地区の見直しの中ではサロンの中で話をして声かけをする。そういう中で問題が出てくるのではないか。各地区でそのような考え方で進めている。
会長	地域内の意見交流はしているが、他府県との交流は行っているのか。
事務局	他府県との交流については、大きな研修などは県単位になる。清和台地区が県で発表したことがある。事務レベルでは豊中に視察に行ったりということもあったが、なかなかできていないのが現状である。
委員	総合福祉センターの進捗状況と今後の方針についてはどうなのか。
事務局	総合福祉センターの具体的な進捗は現段階では無い。財源と場所の問題がある。ふれあいプラザ改装については、ボランティア活動の充実と社会福祉協議会・地域包括支援センター・障害者団体の連携を行うものである。今年度に整備をし、半年程度かかる。年明けぐらいには使用してもらえと思う。
委員	地域包括支援センターについて、今年は2箇所であるが、今後の予定はどうなのか。
事務局	日常生活圏域は各中学校区と考えている。19年度には北部地域包括支援センター（さぎそう園）・南部地域包括支援センター（ハピネス川西）。今後は予算等の状況を見ながら、日常生活圏域で整備していく予定。
委員	市直営の地域包括支援センターは、基幹型在宅介護支援センターのような役割を担うのか。どのように考えているのか。

主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

事務局	地域包括支援センターは総合相談、権利擁護事業などを実施しますが、高齢者虐待に関する立ち入りは市直営でしかできないため、市直営は必要と考えている。
事務局	すこやか子ども室、いきいき長寿室、健康づくり室の事業進捗状況（資料番号2 - (5)）について、各担当者より説明。
委員	学校安全協力員の配置について14校で1,600人とのことだが、あと2校の取り組みは。
事務局	教育委員会で資料提供いただいたものなので、内容について調べてあとで報告する。
委員	介護保険運営協議会が地域包括支援センター運営協議会を兼ねているということか。
事務局	厚生労働省の解釈により、介護保険運営協議会の委員で地域包括支援センター運営協議会をしてもよいということになっているため、兼ねている。
委員	各地区に福祉委員会がある。対象がどうしても高齢者、障害者に行く。地区にもよると思うが、児童に重点が置かれていないような気がする。あれこれすると、なかなか重点が置かれない。地域でも焦点を定めたほうがよいような気がするが、どのように考えているか。
事務局	地区福祉委員会には色々な役割がある。地区福祉委員会としては高齢者が住みなれた地域で生活してもらおう。子育ては地域全体で大事な問題。トータルとしてバランスよくやってもらうのが理想であり願いである。
委員	守備範囲が広すぎて、焦点が絞りにくいような気がしている。その当たりの整備をしてもらったほうがよいのではないかという気がしている。現場感覚からするとしんどいのではないかと思う。同じ人があれもやりこれもやりというのが現状である。1人でいくつもというのはどうなのかと思う。
事務局	地域には高齢の方、児童、いろいろな人がいる。サロン一つにしても高齢者だけでなく、児童も来て交流をしたりしている。障害をお持ちの方用のサロンは今後必要である。トータルで支援が必要な方は住民みんなが支える必要がある。そういう枠を取り払っていいこうという考えができています。

主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

会 長	<p>校区に市役所の方が出かけていくという仕組みはどうだろう。介護保険料は上がるし、変な事業者が出てくるし。公的にはどうかかわっていくのか。市役所が一番大きな事業者である。</p> <p>デザインひろばづくり事業は縦割りにならない出先を作ろう。市はどうしても縦割りである。市と知恵を出し合って地域と考えていく。</p>
事務局	<p>地域担当職員という自治体もある。川西ではそういう取り組みを現在はしていない。福祉委員会が取り組んでいる福祉デザインひろばは、まさに参画と協働である。地域には自治会、コミュニティなどいろいろある。それぞれの役割に応じて市との関わり方があると思うが、地域と話す中で問題が解決できればよい。我々にとっても参画と協働である。</p>
会 長	<p>しかし、反面、地域担当職員は毎日地域へ出かけて行くので上司が管理できなくなったという話もある。デザインひろばは全体のことを知らないととんでもないことになってしまう。地域分権の中の実践。その中の創意工夫を考えてもらっても良いと思う。</p> <p>小学校区は住民からすると参加しやすいが、中学校区は希薄になる。おとなもそうである。うちの子は私学の中学校に行ってるから遠慮するという話になる。デザインひろばはそれを克服しようとしている。職員が地域の人とやっていくところが弱いと思う。地域包括支援センターがあるので、もう少し連携を深めてほしい。介護保険はこのままいくと破綻するかもしれない。市町村で考えなければ本当に介護難民ができる。考える材料はないというわけではなく、デザインひろばづくり事業がある。それをアピールすべきである。</p>
事務局	<p>障害者福祉計画について(資料番号2-(6))を、計画書に基づいて説明。</p>
会 長	<p>計画の修正はできないのか。</p>
事務局	<p>修正はできない。</p>
会 長	<p>次回の改定でこういう文言をと言うのがあれば。</p> <p>できれば、どうすれば障害者計画と地域福祉計画がリンクしていくのかということも考えてほしい。団体との関わり方なども課題になっていくと思う。障害を持った方が高齢になったらどうするか、障害者の就労の場としてのコミュニティビジネスについてなど、連携をしていってほしい。</p>

主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。

審 議 経 過

No. 6

事務局	学校安全協力員のことで、14校1,600人の報告を16校1,600人に訂正させてもらう。
委員	了解した。
事務局	地域福祉計画の見直しについて（資料番号3-(1)）を読み上げる。
会長	私は、それぞれの計画を事業でつないでいかないといけないと思う。 お互いの計画の中に取り込んでほしい。計画に反映するときに、多少、目標年度がちがっていてもよいと思う。 他に意見は無いようなので、審議を終了する。
事務局	今年度1回開催したが、次年度、地域福祉計画の見直しもあるため、年度末にもう一度開催をお願いしたいと思う。あらためて日程調整をさせてもらう。
事務局	長時間の審議をありがとうございました。

主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。